



イヌマキ等の害虫

『キオビエダシャク』にご用心！



イヌマキ等（イヌマキ、ヒトツバ、ラカンマキ、ナギ）の害虫である『キオビエダシャク』。

幼虫が葉を食べつくし、樹木が枯死する場合があります。自宅の庭にイヌマキ等がある方は薬剤散布など対策を行い、被害が拡大しないように注意しましょう。

◆キオビエダシャクはどんな虫？

成虫は、開長約 6 cm で、全体的に紺色をしており、羽に黄色の帯があり、通常の蛾と違い、昼間に飛びまわります。

幼虫は、体長約 5 cm で頭、尻及び側面がオレンジ色をしており、全体的に灰色と黒色のまだら模様をしています。

◆発生したら

①幼虫の発生が少ない場合

木を揺すって落ちた幼虫を駆除します。また、木の根元の土中に茶褐色で紡錘方をしたサナギがいますので、掘り出して駆除します。成虫は、虫取り網などで捕まえ駆除してください。

②幼虫が大量発生している場合

薬剤散布が効果的です。薬剤がムラ無く葉の裏にもかかるように散布します。その後は定期的に観察して発生を確認したら散布を実施します。

※薬剤散布は幼虫には効果がありますが、成虫、卵及びサナギには効果がありません。



◆自分で薬剤散布する時に気をつけること

(1) 行方前に、あらかじめ近所の方にも連絡し、散布中は、周辺の農作物や通行人等に

薬剤が飛散しないように注意しましょう。

(2) 風の無い日を選び、日中の暑い時間を避け、朝夕の涼しい時間帯に行いましょう。

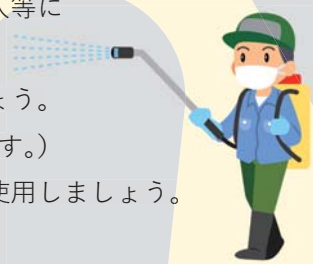
(3) 薬剤がムラなく葉の裏にもかかるようにしましょう。(幼虫は葉の裏にもいます。)

(4) ラベルの説明書を必ず読んで、薬剤の希釈倍数など記載内容に従って正しく使用しましょう。

(決めた希釈倍数より濃い濃度での散布は危険ですので、やめましょう。)

(5) 散布を行う際は、薬剤が体に付着しないようにマスク、手袋、帽子、長靴、雨合羽などを着用しましょう。

(6) 散布後はただちにうがい、洗眼を行い、また手足等を石鹸で洗い、衣類は下着まで着替えましょう。



薬剤名	希釈倍数	使用液量 (10 アール当たり)	同じ有効成分を含む 農薬の総使用回数
トレボン乳剤	4000 倍	100 ～ 700 リットル /10a	6 回以内
ロックオン (フルベンジアミド)	1000 倍	100 ～ 700 リットル /10a	2 回以内
アディオン乳剤 (ペルメトリン)	4000 ～ 8000 倍	100 ～ 700 リットル /10a	6 回以内

◆自分で薬剤散布が出来ない場合

自分で薬剤散布ができない場合は、大隅森林組合【☎ 0994(40)1611】や造園業者等にご相談ください。金額については、各事業所にお問い合わせください。

お問い合わせ先 肝付町役場 林務水産商工課 ☎ 0994(67)4513